

PEP TALK!



通信 Vol.20

【して欲しいことを言葉にしよう】

上司が部下に、先生が生徒に、親が子供に指示する場面で、残念だなと思うことがしばしばあります。

- 「大事な書類だからミスするなよ」
- 「明日の授業では忘れ物をしないでね」
- 「ここは病院だから大きな声を出さないで」

これらの言葉、私たちが日常よく口にしてしているような言葉ですよ。これの何処がいけないの？と思われた方も多いのではないのでしょうか。

でもこの伝え方では、本来してほしい事がされにくい非常に残念な伝え方なのです。なぜなら人間の脳は言葉をイメージ化する、かつ「する」「しない」の判別が苦手だからです。よって先程の伝え方で相手の脳に残るのは

- [ミス]
- [忘れ物]
- [大きな声]

脳はそのイメージを持って、全細胞に

- [ミス]
- [忘れ物]
- [大きな声]

するよう指示を出す。これでは困りますよね。

ではしてほしい事をしてもらえようにするには、どのような伝え方をすれば良いのか？

それは「してほしい事をストレートに伝える」こと。先程の例で言うと

- 「大事な書類だから丁寧に書いてね」
- 「明日持ってくるもののリストをチェックしよう」
- 「ここは病院だから静かにしていようね。」

など、してほしいことをそのまま伝える。

これにより脳はインプットされた事を実行しようとし、その結果、行動が変わってくるのです。

あなたの伝え方は相手の脳にどのような言葉をインプットする伝え方でしょうか？日常を振り返ってみましょう。